

免震・制振用オイルダンパー問題の再発防止策の進捗

2019年2月13日付当社ホームページにて「当社及び当社の子会社が製造した建築物用免震・制振用オイルダンパーにおける不適切行為に関する原因究明・再発防止策について」を公表後、着実に再発防止策を遂行し、信頼回復に取り組んでまいりました。

2020年6月30日時点で、再発防止策の約7割が対応済みであり、未了の具体策についても取り組みを継続しています。

「再発防止策の進捗状況」「対応についての進捗状況」については当社ウェブサイトにて随時ご報告しています。
<https://www.kyb.co.jp/company/progress/index.html>

再発防止策の進捗状況 (2020年6月30日時点)

厳格な規範意識の醸成 および企業風土の改革	コンプライアンス経営の定着化	・当社およびKSM*における意識の定着	対応済
		・当社グループの規範意識の醸成	対応済
		・企業行動指針などの改定	対応済
		・定期的なコンプライアンス重視のメッセージの発信	対応済
		・人事評価など	対応済
	役職員一人ひとりの意識改革	・社会的責任を自覚させる教育・研修の実施	対応中
		・ケーススタディや他社事例を多く取り入れた教育の実施	対応済
		・事業および製品に特有の法令に関する教育	対応中
		・品質教育の義務化	対応済
事業性の評価、 事業運営体制および 情報共有体制などの 見直し	バランスのとれた事業運営体制	・KSMの適正な事業運営	対応中
		・KSMの受注決定判断の見直し	対応済
		・事業体制の整備	対応済
		・個別または少量生産品の量産評価手順の見直し	対応済
	人事ローテーションの徹底	・効果的な人事ローテーションなどを通じた知識・ノウハウの社内共有化による、後任者の育成および業務の透明性向上	対応中
		情報吸い上げ・ フィードバック体制の整備	・KSM内での会議・報告・指示内容の書面化の徹底
	・緊急時の社内規程の運用徹底		対応済
	・内部通報制度の実効性向上に向けた見直し		対応済
	・品質不正問題発覚時の対応明確化		対応中
			・情報を吸い上げる仕組みづくり
検査体制・方法の改善	検査体制	・品質保証機能の独立性強化	対応中
		・オイルダンパー立会検査時の検査方法の改善	対応中
		・検査マニュアルの整備	対応中
	検査機の不正防止措置	・オイルダンパー検査機のソフトウェア変更の社内手続きの厳格化	対応済
		・オイルダンパー検査機のソフトウェアの定期的モニタリング	対応済
		・人為作業を介さない検査結果の自動記録化	対応中
		・検査プロセスの自動化推進	対応中
		・オイルダンパー検査機へのアクセス管理の強化	対応中
		・性能試験データのトレーサビリティの確保	対応中
内部監査・ 統制体制の強化	内部品質監査体制の強化	・品質不正を念頭に置いた監査	対応済
		・検査データの内容を確認する実効性のある監査の実施	対応中
		・当社による独自の監査	対応済
		・専門家による支援	対応済
	子会社管理体制の強化	・グループ企業との情報連携体制の強化	対応済
		・グループ企業に対する管理体制の見直し	対応中
		・グループ企業の事業リスクの分析・把握	対応中
		・グループ企業の再編	対応中

* カヤバシステムマシナリー(株)

ステークホルダーコミュニケーション

基本的な考え方

当社は、経営理念に「人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、社会に貢献する」ことを掲げています。本理念を実行していくため、「1. 規範を遵守するとともに、何事にも真摯に向き合うこと」「2. 高い目標に挑戦し、より活気あふれる企業風土を築くこと」「3. 優しさと誠実さを保ち、自然を愛し、環境を大切にすること」「4. 常に独創性を追い求め、お客様・株主様・お取引先様・社会の発展に貢献すること」、これら4つの精神に則り、すべ

でのステークホルダーとの対話を深め、当社をより理解していただけるよう努めています。対話を通じ、取り組むべき課題を明確にし、一つひとつ真摯に向き合い解決していくことで、皆様の信頼、期待に応えていきます。

また、自らの改善に努め、絶え間ない独創的・革新的な研究開発により高められた技術力をもとに、人と地球にやさしい製品づくりを通じて持続可能な社会の発展に貢献します。

ステークホルダーコミュニケーションの実施状況

取り組みの姿勢	事業への影響	主なエンゲージメント方法	頻度	内容
お客様 (メーカー、エンドユーザー) お客様の満足する品質を備えた製品とサービスを適時適切な価格で提供することで、社会からの信頼を得られるよう努めていく	お客様ニーズの収集とお客様満足度の向上	電話でのお問い合わせ	随時	電話およびメールフォーム
		ウェブサイトでの発信	随時	会社情報・事業内容の発信
		KYB技報	年2回	技術・製品の紹介
		KYBグループレポート	年1回	財務および非財務情報の開示
株主様 株主様に対する事業内容や経営方針、業績の見通し、成果などを適時適切に開示していく	対話を通じての企業価値向上	株主総会	年1回	事業報告・連結計算書類、計算書類、監査結果報告、決議事項の審議および決議
		報告書(有価証券報告書・決算短信など)	年1回～	株主様への報告
		株主様向け工場見学会	年1回	工場見学を通じての対話促進
お取引先様 お取引先様を大切なビジネス・パートナーとして尊重し、共存共栄、信頼関係の構築に努めていく	相互信頼に基づく関係強化	調達方針説明会	随時	方針の共有
		定期訪問	随時	各種打ち合わせ
従業員 労使の共通の基盤である企業の永続的な発展と豊かな社会づくりのために貢献するよう努めていく	労使関係の強化／従業員のモチベーション向上	労使協議会	年数回	労使による各種協議会などの開催
		社長メッセージ	年2回以上	賀詞交歓会、所信表明
		従業員意識調査	年1回	アンケート調査の実施
		社内報	月1回	社内報による情報展開
地域社会 地域社会との連携と協調を図り、ボランティア活動、地域イベントの実施などに積極的に取り組み、地域社会の発展に貢献していく	地域社会との共生	当社イベントへの招待	随時	工場単位でのイベントの開催
		地域イベントへの参加	随時	地域住民との交流

2019年度のトピックス

チェアスキー、障がい者スポーツの発展に貢献

当社がチェアスキー用ショックアブソーバの開発・改良に最初に携わったのは、1990年代初頭です。それまでの日本製チェアスキー用ショックアブソーバは、二輪車用市販製ショックアブソーバを選手自らチューニングするなどして使用していましたが、形状が二輪用ショックアブソーバと似ていることから、当社に依頼いただきました。その後、1998年にアルペン競技強化のための開発プロジェクトを契機に、特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟アルペンスキーナショナルチームとより緊密に連携し、チェアスキー用ショックアブソーバの開発を行うこととなりました。1998年長野オリンピックにおける金メダル獲得に始まり、2015年には社会貢献活動の一環としてチェアスキー支援活動を強化し、同連盟への協賛を始めました。さらに、製品開発だけ

でなく、チーム合宿や各国で行われる大会などにおいて、技術サポートも行っています。製品開発は、選手の感覚的な言葉をいかに理解し、技術的な言葉(=数値)に変換してセッティングに反映できるかに掛かっています。そのため技術者は、日頃から選手やチームとコミュニケーションを図りながら開発を進めており、こうした活動は技術者育成の場としても重要な役割を担っています。近年のチェアスキーは、競技レベルや選手の能力向上に合わせて機材が進化したことで、コンディションに合わせた精緻な調整が求められるようになってきました。当社は二輪車用ショックアブソーバで培った製品開発と技術サポートのノウハウにより、今後も選手と一体となって、完成度の高い製品開発・改良に努めるとともに、障がい者スポーツの発展に貢献していきます。



チェアスキー用ショックアブソーバ



選手への技術サポート

鈴木選手がアジアカップで金メダルを獲得

2015年、強化指定選手であるチェアスキーヤー・鈴木猛史選手が当社に入社し、現在も世界大会で活躍しています。昨年度は2020年1月に行われたワールドカップ(イタリア)の第1戦回転で銅メダル、ワールドカップ(スロベニア)の第1戦回転、第2戦回転で銅メダル、また2020年2月に行われた2020パラアルペンスキー競技大会アジアカップ(長野県)では、第1戦大回転、第1戦回転で金メダルを獲得しました。



鈴木猛史選手(アジアカップにて)



アジアカップ表彰式

親子イベントを開催

国内5工場にて、初の親子イベントを開催し、注射器ショベルづくりりに挑戦していただきました。最大20組のご家族が参加し、このイベントを通じて、子どもたちに油圧の不思議を学んでもらうとともに、親の働く会社を身近に感じることで、家族の絆を深めてもらいました。参加後のアンケートには、「働いている姿がカッコよかった」「大きな工場ですごく良かった」「パスカルの原理が知ることができて楽しかった」などの声が多数寄せられました。



小学生向け工場見学会を実施

2019年10月に関市立下有知小学校の児童68名、2019年11月に岐阜大学教育学部附属小学校の児童104名をご招待し、KYB岐阜北工場の見学会を実施しました。当日は、当社の概況と製品について説明し、紙芝居を使用しながら、実際の工場内の製造ラインや安全体感道場などをご覧いただくとともに、KYBの環境への取り組みをご紹介します。見学終了後はたくさんの質問や意見をいただき、皆さんと楽しく交流を深めることができました。



「産業フェアin可児2019」に出展

2019年10月に「産業フェアin可児2019」が開催されました。本フェアは地域経済の活性化を目的としており、今年は、NHK大河ドラマ『麒麟がくる』の放映開始に伴い「大河ドラマ館」が開館することもあり、多くの人出で賑わいました。当社はショックアブソーバの展示や、注射器ショベルを実際に動かすことで油圧の原理を体感していただいたほか、企業体験ボランティアとして高校生を受け入れるなど、大変好評でした。



被災地支援のためのマルシェを開催

本社に続き、相模工場と熊谷工場でも「東北物産展」を開催し、相模工場の食堂では、東北にちなんだメニューを約300食提供しました。今後も、東日本大震災の記憶を風化させることなく、被災地の復興支援を継続していきます。



東京都共同募金会より感謝状授与

2020年2月、社会福祉法人東京都共同募金会(赤い羽根共同募金)より、当社が20年以上にわたり募金活動を行っていることに対し、感謝状を授与されました。今後も、社会福祉事業への支援を積極的に行っていきます。

